

「持続可能な福祉社会—『もうひとつの日本』の構想—」広井良典／著 筑摩書房 2006年7月発行
2階一般開架図書（請求記号：364）

大手の介護福祉事業会社や国民年金問題などが世間を騒がしているが、福祉や社会保障いうと、総じて高齢者を思い浮かべがちだ。しかし、本書の著者は今こそ「人生前半の社会保障」が必要だと説く。高度経済成長期から90年代前半までは、現役世代の社会保障は終身雇用の「カイシャ」と「(核) 家族」が担っていたが、それが90年代後半には崩れてしまったからだ。

プロローグでこのように主張した著者は、以後、オールタナティブ、かつ知的でスリリングな福祉政策論を展開する。たとえば、従来なら無関係と見られていた環境政策と福祉政策が「富」をキーワードにすると、密接に関連があることが見えてくるなどなど！

とかく議論が硬直的し、矮小化されがちな福祉政策、社会保障政策を肩の力を抜いた語り口で私たちに新しい見方・考え方を提供してくるのは、『ケアを問いなおす』（ちくま新書）、『死生観を問いなおす』（同）、『定常型社会』（岩波新書）から変わることなく続く「広井ワールド」の蓄積とともに研究者としての成長を私に感じさせてくれる。

「せいめいのれきし」

バージニア・リー・バートン／文・え いしいももこ／やく

岩波書店 1964年12月発行 1階子ども読書室（請求記号：461）

はるか昔の太陽の誕生から地球の生成、そして今、私たちが生きている今このときまでを舞台劇にした絵本です。

太陽の誕生と地球の生成の過程をプロローグに古生代、中生代から現世、現代の人々の生活まで5幕36場を劇で見せ、エピローグで「さあ、このあとは、あなたがたのおはなしです。その主人公はあなたがたです。」と結び、私たちの生活がはるか昔から連綿と続いていることに気づかされます。

『ちいさいおうち』でお馴染みの著者が8年の歳月を費やしたこの作品は、計算された構成と精緻で丹念な絵は美しく、ひとつのものがいつも同じでないこと、またどんなものも、だんだん変っていくことが色彩を美しく変化させて描かれていることにより、心地よく、豊かなリズム感をもって伝わってきます。